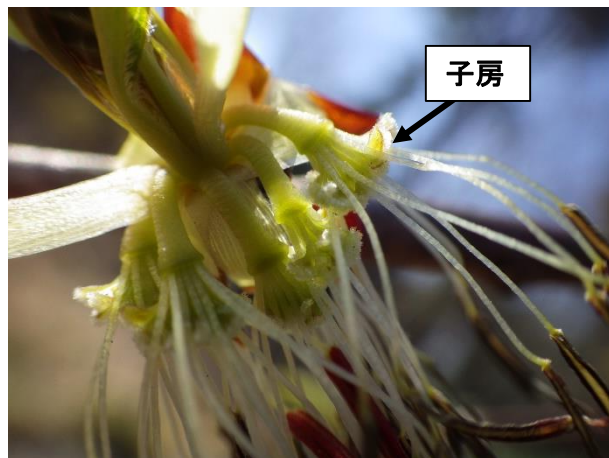


植物多様性センターの「フサザクラの変身」

フサザクラはサクラの仲間ではなく、フサザクラ科に属する花弁も萼(がく)もない風媒花を咲かせる植物です。山地の沢沿いの急傾斜地などに自生し、翼のついた種子を風散布で飛ばすパイオニア植物でもあります。葉が開く前に花を咲かせ、初夏にはすっかり若い果実が目立つようになります。学習園の奥多摩ゾーン落葉広葉樹林エリアで、小さな緑色の欠けたハート型の果実が観察できます。



開花：早春に赤い葯が目立つ房状の花をつける



開花直後：開葯した雄しべの花糸が伸び子房がふくらみ始める



展葉：尾状の先端をもつ不規則な鋸歯のある新葉を展開する



若い果実：欠けたハート型の翼のついた果実が肥大し始める